

# 兜(ガぶと)を

あけちみつひでおおつ  
あけちみつひでおおつ  
あけちみつひでおおつ

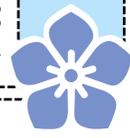
作ってみよう!



2023年8月

発行：大津市歴史博物館

## 明智光秀と大津



明智光秀は16世紀前半に、美濃国(岐阜県)で生まれたといわれている。光秀に関する資料が少ないので、謎の多い人なんだ。

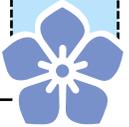
28歳のころ、戦で明智城が陥落して、命からがら美濃を脱出。浪人となって各地を転々とした後に、織田信長に仕えることになったよ。

43歳のころ、信長対浅井・朝倉軍の衝突「志賀の陣」が起きたんだ。その後、光秀は宇佐山城(大津市南滋賀)の城主となったよ。信長の比叡山焼討ちの後に、光秀はその活躍が認められ志賀郡一帯の支配を任せられたんだ。そして、坂本城(大津市下阪本)を築城し、城主になったよ。

琵琶湖のほとりに建つ坂本城は、たいそう立派で美しい城であったと伝えられているよ。

大津での光秀の活躍を陰で支えた妻 照子を、光秀はとても大切にしていたという言い伝えがあるよ。同じように光秀は家臣や城下の人々も大切にしていたんだ。光秀は、知識人で剣や鉄砲の腕もたつ優れた武将だったんだよ。

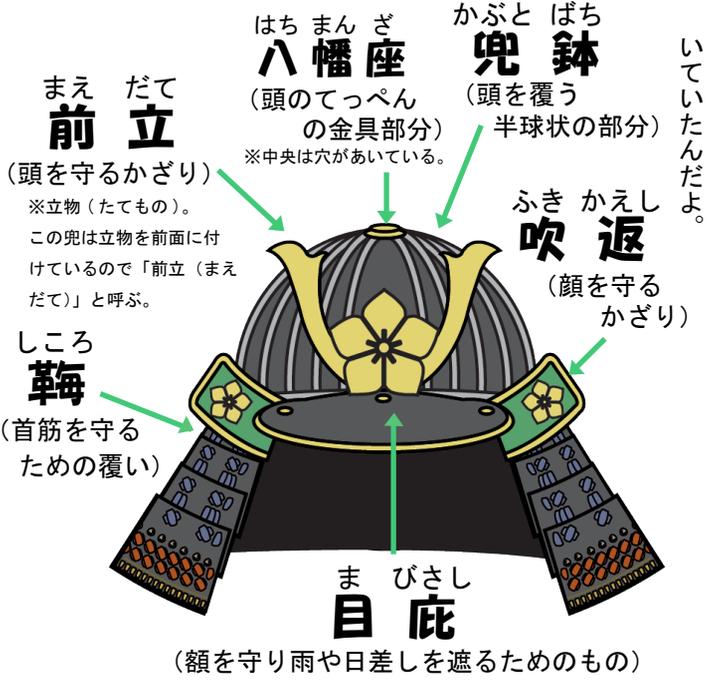
## 兜ってどんなもの？



兜は、武士が戦場に行く時に身に着けた防具で、頭を守るヘルメットだよ。ほとんどが鉄でできていて、たまに青銅製の物もあったんだって。兜の形は時代ごとに流行があったんだ。戦国時代は戦がどんどん激しくなっていたので、それに合わせて兜もより強い形に変わっていったよ。

室町時代に流行っていた兜の形は、「阿古陀形」という筋兜。頭を覆う部分の兜鉢が、阿古陀瓜というウリの形に似ているのでそう名付けられたんだって。ふくらみが大きいので通気性が良く、外からの衝撃にも強かったんだ。兜鉢は、「縦矧板」という鉄の板を何十枚も合わせて半球状にしているよ。

また、兜は単なる防具ではなく、戦場の晴れ着でもあったんだ。だから、美術工芸品のような美しいかざりが付いていたんだよ。



※参考資料…『図録 日本の甲冑武具事典』 笹間良彦 著 1989年5月25日 第3刷発行

## 兜を作ってみよう!



- がんばろう! 1** 印刷した型紙7枚をハサミなどですべてキレイに切る。  
★ハサミでケガをしないように気をつけてね!
- むずかしい? 2** かぶとばちA・B・Cののりしろを折り曲げはりつける。  
★のりづけが難しければセロテープや両面テープでもOK。
- できたかな? 3** かぶとばちA・B・Cの3つのパーツをつなげて半球状にする。  
★とれそうだったら裏からセロテープをはってね。
- くっつけよう 4** しころパーツをつなげたら、かぶとばちとつなぎあわせる。  
★先に後ろの中心どうしをとめるとかんたんだよ。
- かざりだよ 5** ふきかえしパーツを作り、しころの両端にはりつける。  
★ふきかえしはまるく立体的につけるといいね!
- あとすこし... 6** まびさしパーツを作り、かぶとばち正面中央にとりつける。  
★カブトの形ができあがってきたね!
- かっこいい~ 7** まえだてとはちまんざのパーツを作り、それぞれはりつける。  
★とりつけはセロテープではると強くなるよ。
- できあがり! 8** やったね!  
★かざったりかぶったりしてあそんでね。

※この兜は明智光秀をイメージしたオリジナルデザインです。

かぶとができた、ツイッターに#遊ぼう大津れきはくハッシュタグをつけてぜひ投稿してね!

ワンポイントアドバイス  
型紙を画用紙に貼ってから作るとしっかりするよ。

オリジナルカラーのカブトに挑戦☆  
白黒の型紙にクレパスやペンで色をぬってみてね!